

3. 通所介護事業所の状況

平成 28 年 9 月中の利用者、および、平成 27 年 10 月から平成 28 年 9 月の対応等について、回答頂いた内容を以下に整理する。

回答は、調査対象 663 事業所に対して、419 事業所（回収率 63.2%）であった。利用者個別票の利用者数は 103 人（62 事業所）であった。

3.1 事業所票

3.1.0 サービス類型

419 事業所について、指定を受けているサービス類型をみると、「通所介護」は 237 事業所（56.6%）、「認知症対応型(通所介護)」は 52 事業所（12.4%）、「地域密着型(通所介護)」は 138 事業所（32.9%）であった。

※複数回答であるため構成割合として示していない。

表 3.1.0 サービス類型 (複数回答)

	合計	通所介護	認知症対応型	地域密着型	無回答
事業所数	419 事業所	237	52	138	10
割合	100.0%	56.6	12.4	32.9	2.4

3.1.1 利用者の状況

有効回答 401 事業所の平成 28 年 9 月中の利用者について、年齢区別の人数、認知症（認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上）の人数をみた。全体の利用者数は、「65 歳以上」が 15,889 人、「40～65 歳未満」が 227 人、「40 歳未満」が 0 人であった。

認知症の利用者について、認知症の利用者ありとした事業所は、「65 歳以上」では 317 事業所（全体に占める割合 79.1%）、「40～65 歳未満」で 55 事業所（同 13.8%）であった。

認知症の利用者数は、「65 歳以上」で 7,308 人（認知症利用者あり事業所の平均値 23.1 人、中央値 17 人）、「40～65 歳未満」で 75 人（同 1.4 人、1 人）であった。

表 3.1.1 平成 28 年 9 月中の利用人数 (N=419)

	全体			認知症（自立度Ⅱ以上）		
	利用実績数 65 歳以上	40～65 歳未満	40 歳未満	利用実績数 65 歳以上	40～65 歳未満	40 歳未満
有効 N	401 事業所	401	401	401	401	401
利用者あり				317 事業所	55	0
割合				79.1%	13.8	0.0
合計値	15,889 人	227	0	7,308	75	0
比率				46.0%	33.0	0.0
平均値	39.6 人	0.6	0	23.1	1.4	0
中央値	28 人	0	0	17	1	0

(平成18年調査) 図表 3.1 利用者の状況 (利用者 N2,856)

	全 体			65 歳以上			40～64 歳(若年)			40 歳 未 満
	利用者数	認知症	比率	利用者数	認知症	比率	利用者数	認知症	比率	
利用者数	2,856 人	1,424	49.9%	2,769 人	1,366	49.3%	87 人	58	66.7%	0
構成割合	100.0%	—	—	97.0%	—	—	3.0%	—	—	0.0%

3.1.3 過去 1 年間 (H27.10～H28.9) の対応

平成 27 年 10 月から平成 28 年 9 月までの 1 年間の若年認知症の利用者への対応状況をみると、有効回答 395 事業所のうち、「若年認知症利用者あり」としたのは、68 事業所 (17.2%) であった。若年認知症利用者数は 111 人 (利用者あり事業所の平均値 1.6 人) であった。

表 3.1.2① 若年認知症利用者数 (N=419)

	若年認知症利用者数
有効 N	395 事業所
利用者あり	68 事業所
利用者あり事業所の割合	17.2%
合計値	111 人
利用者あり事業所平均値	1.6 人

(平成18年調査) 図表 3.5 過去 1 年間の若年認知症の対応状況 (N56)

	有効 回答	提供あり 事業所数	利用者数					利用者数	
			1 人	2 人	3 人	4 人	5 人 以上	総数	平均
事業所数	56	34 事業所	22	6	3	0	3	97 人	2.9 人
割合	—	60.7%	64.7%	17.6%	8.8%	0.0%	8.8%	—	—

若年認知症(利用者)に関する相談先の有無および相談先についてみると、「相談先あり」が 304 事業所 (72.6%)、「相談先なし」が 51 事業所 (12.2%) であった。

相談先ありとした 270 事業所について、具体的な相談先機関をみると、「地域包括支援センター」が 200 事業所 (65.8%) と最も多く、次いで、「利用者のかかりつけ医」が 144 事業所 (47.4%)、「他のサービス事業所」が 121 事業所 (39.8%) の順となった。

表 3.1.2㉔ 相談先の有無と相談先

	相談先の有無			
	合計	相談先あり	相談先なし	無回答
事業所数	419 事業所	304	51	64
構成割合	100.0%	72.6	12.2	15.3

(複数回答)

	相談先							
	合計	利用者の かかりつけ医	認知症疾患 センター等/ 専門医療機関	地域包括 支援センター	市町村の 担当課・者	他のサービス 事業所	その他	無回答
事業所数	304 事業所	144	47	200	108	121	47	6
構成割合	100.0%	47.4	15.5	65.8	35.5	39.8	15.5	2

(平成18年調査) 図表 3.7 事業所としての相談先(有無と数) (N56)

一部改変

	有効 回答	相談先あり 事業所数	相談先					
			かかり つけ医	認知症 センター等	地域包括 支援センター	市町村 担当課	他サービ ス事業所	その他
事業所数	56	41 事業所	21	10	17	11	24	5
割合	—	73.2%	51.2%	24.4%	41.5%	26.8%	58.5%	12.2%

3.2 利用者個票

続いて、若年認知症利用者（平成 27 年 10 月～平成 28 年 9 月の若年認知症利用者）ごとの個別状況について、以下整理する。

3.2.1 性別

まず、性別をみると、「男性」が 47 人（58.0%）、「女性」が 34 人（42.0%）であった。

表 3.2.1 性別

	合計	男性	女性	無回答
利用者数	81 人	47	34	0
構成割合	100.0%	58.0	42.0	0.0

3.2.2 年齢階級

次に、年齢階級をみると、65 歳未満が 78.6%、65 歳以上が 21.4% であり、また、5 歳刻みの状況は、「60～64 歳」が 51 人（49.5%）と最も多く、以下、「55～59 歳」が 19 人（18.4%）、「70 歳以上」が 14 人（13.6%）の順であった。

表 3.2.2 年齢階級

	合計	50 歳未満	50 歳～ 54 歳	55 歳～ 59 歳	60 歳～ 64 歳	65 歳～ 69 歳	70 歳以上	無回答
利用者数	103 人	81				22		0
構成割合	100.0%	78.6				21.4		0.0
利用者数	103 人	2	9	19	51	8	14	0
構成割合	100.0%	1.9	8.8	18.4	49.5	7.8	13.6	0.0

3.2.3 認知症自立度

認知症高齢者の日常生活自立度をみると、ランク「Ⅲ」が35人（43.2%）と最も多く、以下、「Ⅱ」21人（25.9%）、「Ⅳ」14人（17.3%）の順であった。

表 3.2.3 認知症自立度

	合計	自立	I	II	III	IV	M	無回答
利用者数	81人	0	2	21	35	14	4	5
構成割合	100.0%	0.0	2.5	25.9	43.2	17.3	4.9	6.2

3.2.4 ADL

続いて、若年認知症の利用者のADL（日常生活動作）について、歩行、食事、排泄、入浴、着脱衣の5つの領域ごとにみた。以下、各領域について構成割合の高い順に整理した。

- ①歩行：「自立」53人（65.4%）、「一部介助」17人（21.0%）、「全介助」11人（13.6%）
- ②食事：「自立」54人（66.7%）、「一部介助」18人（22.2%）、「全介助」9人（11.1%）
- ③排泄：「自立」34人（42.0%）、「一部介助」28人（34.6%）、「全介助」19人（23.5%）
- ④入浴：「一部介助」46人（56.8%）、「全介助」19人（23.5%）、「自立」12人（14.8%）
- ⑤着脱衣：「一部介助」42人（51.9%）、「自立」20人（24.7%）、「全介助」18人（22.2%）

①～③の基本的動作と、④・⑤の動作組み合わせや細かい動作を伴うものは「一部介助」の割合が最多となる点、居宅介護支援事業所の利用者の結果と同様の傾向となった。

表 3.2.4 ADL（日常生活動作）

	歩行					
	合計	自立	一部介助	全介助	不明	無回答
利用者数	81人	53	17	11	0	0
構成割合	100.0%	65.4	21.0	13.6	0.0	0.0
食事						
利用者数	81人	54	18	9	0	0
構成割合	100.0%	66.7	22.2	11.1	0.0	0.0
排泄						
利用者数	81人	34	28	19	0	0
構成割合	100.0%	42.0	34.6	23.5	0.0	0.0
入浴						
利用者数	81人	12	46	19	4	0
構成割合	100.0%	14.8	56.8	23.5	4.9	0.0
着脱衣						
利用者数	81人	18	42	20	1	0
構成割合	100.0%	22.2	51.9	24.7	1.2	0.0

3.2.5 認知症診療（診療形態）

認知症の診療形態をみると、「通院」が 61 人（75.3%）、「入院」が 2 人（2.5%）、「なし」が 13 人（16.0%）であった。約 8 割の利用者が通所介護利用と通院を並行していた。

表 3.2.5 認知症診療

	合計	通院	入院	なし	不明	無回答
利用者数	81 人	61	2	13	5	0
構成割合	100.0%	75.3	2.5	16.0	6.2	0.0

3.2.6 要介護度

次に、若年認知症の利用者の要介護度をみると、「要介護 2」が 18 人（22.2%）と最も多く、以下、「要介護 1」が 17 人（21.0%）、「要介護 3」、「要介護 4」がともに 16 人（19.8%）、「要介護 5」が 11 人（13.6%）の順であった。

表 3.2.6 要介護度

	合計	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	非該当	無回答
利用者数	81 人	0	1	17	18	16	16	11	0	2
構成割合	100.0%	0.0	1.2	21.0	22.2	19.8	19.8	13.6	0.0	2.5

3.2.7 サービス利用頻度

通所介護サービスの利用頻度をみると、「週 3 回以上」が 43 人（53.1%）と 5 割を超え最も多く、以下、「週 1 回以上」が 36 人（44.4%）となり、週 1 回以上とする利用者が 9 割を上回った。

表 3.2.7 サービス利用頻度

	合計	週 3 回以上	週 1 回以上	2 週に 1 回程度	月 1 回程度	その他	無回答
利用者数	81 人	43	36	0	1	1	0
構成割合	100.0%	53.1	44.4	0.0	1.2	1.2	0.0

3.3 記述回答設問

3.3.1 利用受入時やサービス提供時に困難な点（回答数 229）

困難な点としては、「本人の介護サービス利用の受入れ、納得感への対応」といった、若年認知症の本人への気持ちへの対応を困難とした回答が 54 件と最も多かった。また、ほぼ同数で、「他の利用者との関係」といった高齢利用者との関係性にかかる対応を困難とした回答が 52 件であった。以下、若年認知症の方の特性を背景に、個別の対応を要するなどのサービス内容の困難やそれを担当するスタッフの体制等についての回答が多くみられた。

表 3.3.1 利用受入時・サービス提供時に困難な点

困難な点	回答数	
①本人のサービス受入れ、納得感への対応	54 件	23.6%
②他の利用者との関係	52 件	22.7%
③サービスの内容の調整や難しさ	45 件	19.7%
④スタッフの体制、ケア技術、育成が必要	24 件	10.5%
⑤家族の理解や協力を得にくい	8 件	3.5%

〈主な回答〉

39	通所介護	高齢者が圧倒的に多いので、どうしても目立ってしまう。施設も広くないため、居場所づくりの配慮が必要となる。
41	通所介護	ご利用者の年齢層が高いため、ご自身の居場所をみつけていただくまでの精神的なフォローや、他の利用者の理解（受け入れ）
59	認知症	高齢の利用者の中ですごされる時、本人の理解（スタッフと思われる）と必要なケアの影響にギャップがあり、とまどったり混乱されたりすることがあった。スタッフ側に若年認知症の方々へのケアについて、専門的な知識がない。
192	通所介護	利用者の平均年齢が 85.3 歳という高齢者の中、若年の方との融合が難しく、座席の配置やアクティビティの提供などむずかしい。また入浴介助などは、同性介助ができない場合がある。
208	地域密着	1 日の定員が 10 人と少数なため、若年性認知症の方がめだってしまう（年齢、容姿等）。他の利用者さんがスタッフとまちがい用事をたのまれるが、できないためトラブルになる。
220	通所介護	パートナーが仕事のためサービス提供時間（早朝、遅い時間）に難がある。また年齢が若いと、高齢の方とのプログラム提供の違いや拒否された時の対応。
249	通所介護	マンツーマンでの対応となるケースが多く、人員配置上受け入れられる回数が限られる。マンツーマンでの対応となり、他利用者とのかかわりを持つ事が難しい。また他利用者の理解も難しく、その方への中傷など不満が出てしまう。
259	認知症	認知症の進行程度によりますが、全体として身体の壮健な方が多いので、他の利用者とのかかわり方が違ってくと思われるので、ほぼマンツーマンなかかわり方が求められるのではないかと考えられます。現在かなりの重度の方がおられるので、認知症デイの専門性を発揮しにくい状態にあります。
368	地域密着	活動の内容、運動量などが、高齢者に合わせているため、個別なプログラム提供が、人間的にも厳しい。
373	通所介護	本人は年齢が若いのに、介護老人施設を利用することへの違和感をもたれ、利用することへの拒否感がある場合が多い。
404	地域密着	高齢の利用者の方々と活動内容（希望）の違いが大きく、サービスを提供する際に、どこにだれに焦点をあわせるのが難しい。

3.3.2 支援(サービス提供)する上での工夫・努力 (回答数 176)

支援する上での工夫・努力としては、多様なメニューを用意などの「サービス内容での配慮等の工夫」とした回答が 55 件と最も多かった。また、「個別対応・ケアの実践」とした回答が 29 件、声掛けや対応の配慮などの「スタッフの対応での工夫・努力」とした回答が 24 件であった。本人の他、「家族への支援・家族との連携」を挙げた回答も 10 件あった。

表 3.3.2 支援する上での工夫・努力

工夫・努力	回答数	
①サービス内容での配慮等の工夫	55 件	31.3%
②個別対応・ケアの実践	29 件	16.5%
③スタッフの対応での工夫・努力 (声掛け・配慮など)	24 件	13.6%
④環境 (座席や机配置、スペース確保)	21 件	11.9%
⑤家族への支援・家族との連携	10 件	5.7%

〈主な回答〉

24	通所介護	安心できる環境づくり (机の配置、他利用者との座席の位置、本人にとって心地よいイスやテーブル、声掛けや音楽)。興味のある活動を探す (選択性のレクリエーション、小グループの活動、馴染みのある活動、できる活動、自信に繋がる活動、保育園交流など)。特別なかわり (個別の声掛け、家族とのかわりなど)
61	地域密着	コミュニケーションが利用者同士でとりづらい時は、積極的に職員が介入し、双方が嫌な思いをしないよう援助する。
64	通所介護	その方の今を受け入れ、活動面に重点を置き、役割を持っていただけるような支援を考える。職員とのかわりを、密にとるようにする
82	認知症	ご本人が自信を持ってできることを、継続してもらうようにしている。ご本人が不安を感じないよう動向を見守り、さりげなく介助するようにしている。
125	認知症	個別対応、グループ対応との中で若年の方が孤立してしまわないように、他の年齢層の高い利用者への理解やかわりを継続的に促していく。
129	認知症	利用中に大きな声を出されることが度々あり、フロアもせまく個室などもないので、外に出て散歩などに出かけ、他者様が出される声のことを気になれない様に配慮している。
150	地域密着	利用日 (定期利用) の調整。その日の人員配置の見直し、増員。
158	通所介護	作業所コーナーを設け仕事として、ゴミ袋の名前書きや牛乳パック切りなどしていただいた。食後は下膳 (食器の片付け) や、掃き掃除、テーブル拭きなどもしていただいた。ケアマネ、家族との連携につとめました。
196	地域密着	デイサービスの雰囲気を出さず、高齢者サロンであると思っただけのよう工夫している。
201	通所介護	出来る限り利用者様として接するのではなく、私たちスタッフと同じように働いている仲間であるというような雰囲気作りにつとめています。また認知症の進行も速いため、できる限りレク等に参加していただき、本人の様子の変化にいち早く気づけるような体制を整えています。
272	通所介護	職員の増員。周りの方との関わりやすいように環境を整える。
274	通所介護	座席配置に配慮し、その他の居場所づくりに努める。職員ができるだけ寄り添うようにする。
328	通所介護	小規模ならではの雰囲気と環境で、利用者のペースで過ごせ、他の方と一緒にいけない場合は、職員が交替しながらその方とのかわりを持つようにしている。
355	通所介護	他の利用者の方との年齢差があるため、コミュニケーションがとりやすい座席に配慮したり、スタッフが間を取り持つ形でかわりが増やせるようにしたりしている。又希望があれば、入浴、排せつ介助に際して、同性介助を行っている。

3.3.3 平成 18 年度(前回調査)に比べて、よくなったと思う点、悪くなったと思う点（回答数 128）

よくなったと思う点としては、「若年認知症が周知された、認知度が高まった」といった、住民等への情報提供や啓発が進んだ点を挙げた回答が 32 件、「対応サービスが充実した、連携がよくなった」といった回答が 18 件あった。他方、悪くなったと思う点として、「支援内容や情報提供が不十分」とした回答が 18 件あった。

表 3.3.3 平成 18 年度に比べて、よくなったと思う点、悪くなったと思う点

よくなったと思う点・悪くなったと思う点	回答数	
①若年認知症が周知された、認知度が高まった	32 件	25.0%
②対応サービスが充実した、連携がよくなった	18 件	14.1%
③特に変化は見られない	11 件	8.6%
④支援内容や情報提供が不十分	18 件	14.1%

〈主な回答〉

11	通所介護	若年認知症に対する相談先が増加した。
30	認知症	事業所にとっては、良くなった点や悪くなった点は特に感じない。認知症カフェが増え、本人とご家族と一緒に参加できる場ができたことは、ご本人にもプラスになるし悩みをご家族が抱え込まず、相談できる場にもなり、そこから家族会などを知るきっかけにもなると思う。喜ばしいことです。
148	通所介護	若年性認知症が世間にも知れ渡るようになり、年のせいと思われていた症状に、早く気付くことができるようになったのではないかと思います。
176	地域密着	若年認知症の方に対する支援方法など、若年認知症を考える機会が増え、事業所内での理解が深まっていると感じています。
184	認知症	前回からの比較としては、特に変わった点は感じていない。若年性認知症に関する、専門的な研修などの機会を、もっと頻繁に開催していただきたい。
190	通所介護	認知症の理解促進は進んでいると思うが、若年性認知症への理解はまだまだできていないように感じる。
196	地域密着	若年認知症の受け入れ体制はあるものの、本人の自尊心、尊厳を守るという観点から、認知症という病名を本人に明かされないまま、サービスの利用をしていただくことは難しい。認知症に関する研修はあるが、以前も今も変わらないように感じます。
228	通所介護	研修会等を通し、若年性を理解する機会が増えている。多くは高齢者の利用するデイが多く、若年性の方の生活や社会性、就学という点を考えるとハード面やソフト面の支援が不十分と思われる。
242	通所介護	認知症に対する知識等については、研修を通じて理解を深めている傾向にあるが、事業所も職員の不足から十分なケアをしたくても、できないもどかしさがある。
303	地域密着	若年性認知症という病気の理解（家族）が以前に比べてやや柔軟になったと思うが、世間からはやはり呆けてしまった、若いのに、かわいそうという目で見られる風習は、変わらないように見える。市の取り組みなど、活動に力を入れていることは当事者、家族にとったら好ましいと思うが、県民全体が周知できるように、よりアピールする必要があると思われる。
316	通所介護	若年性認知症そのものが広く理解、認知されるようになってきている。若年性認知症を対象とするサービスが創設されている。
357	通所介護	リーフレット、パンフレットの作成などの周知活動により、県民や企業に一定の理解が得られたと思う。
420	認知症	若い方の相談や、実際に紹介されてきてくださるようになりました。ご本人・ご家族の理解も、以前よりすすんできています。受け皿として柔軟に対応と、就労的なご利用を心掛けていますが、人員、他の方との協働で難しく感じることも多々あります。